

令和2年度 第3回名桜大学FD研修会

環太平洋地域文化研究所長 仲尾次 洋子

令和2年度名桜大学第3回FD研修会は、令和2年9月30日（水）名桜大学環太平洋地域文化研究所との協働開催により、学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室 A・B 及び オンライン（Microsoft Teams）を活用して開催された。本研修会では、昨年度に引き続き、名古屋市立大学学長の郡健二郎をお招きし、「皆さんの質問から考える採択される条件」と題してご講演頂くとともに、「個別申請書公開添削」という新たな試みも展開して頂いた。

ご講演においては、研究者からよく受ける17の質問を提示し、その中でもとくに重要な以下の6つのポイントに関して詳細をご教示頂いた。

- ①今年こそ「基盤研究B」にアタックしたい、その秘伝
- ②「4つの評定（審査）基準」を知らずして採択なし
- ③「審査委員」の心を掴み、採択も掴む
- ④審査委員を引きつける「研究課題」の書き方
- ⑤わかりやすく、読みやすい「概要」、「本文」の書き方
- ⑥採択されるために最も重要なことは？

「採択への王道は熱意と謙虚さ」、そして「ドタバタ申請に採択なし」が採択されるためにもっとも重要であることが刻まれるご講演となった。

さらに、個別申請書公開添削においては、令和2年度に若手研究の区分に申請予定の申請書を用いて、ポイントを明示してご説明頂いた。本学でご協力頂いた若手研究者と郡講師とは事前にメールや電話での綿密なやり取りが繰り返され、推敲が重ねられた申請書を用いたレクチャーは我々にとって有意義な学びとなった。

研修会後の参加者に対するアンケートによると、研修会の内容について「満足」が74%、「やや満足」26%と合わせて100%と極めて高い結果であった。

大学の教員は、それぞれの専門分野で日々研究活動に真摯に取り組み、研究から得られた成果を学生教育や地域に還元する使命を負っている。とりわけ、公立大学としての本学は、外部資金を獲得することによって研究活動の水準を向上させなければならない。今回のFD研修会も、科研費申請のノウハウにとどまらず、研究に対する意識の向上、研究者としてのライフワークについて有益な示唆が得られるものとなった。